

## 平成 21 年度 第 3 回草津市次世代育成支援対策協議会

日時：11 月 13 日（金）10：00～

場所：草津市役所 8 階会議室

### 【次第】

開会

1. あいさつ

2. 議事

■後期行動計画の素案について

閉会

### 【議事内容】

<事務局>

－後期行動計画の素案について 説明－

<会長>

今日を外すと我々にとって後がありませんので、ざっくばらんにお気づきのところや前回会議以降、委員さんから出された意見が反映されているかも含めて、自由にご意見を出していただきたいのですが、いかがでしょうか。

<委員>

いろいろなサービスがあるということで非常に整理していただけていますが、あえて申し上げますと、「ファミリー・サポート・センター」のイメージ図で、市民の皆さんに自分がどの立場になれるのか、分かりやすいようにされるといいと思います。

<会長>

子育ての援助を受けたい人も、援助をしたい人も「ファミリー・サポート・センター」に行けば、情報がわかりますよというイメージですね。

<会長>

リーディングに挙げられている総合子育て支援センターでは、サービスを受けたい人と提供したい人との情報や、自分がやりたいことあるいは自分が求めている情報等が、たらい回しされることなく、そこに行けばあるという機能の整備ですが、一番大切なのは、ハードとソフトがきちんと成り立ってこそその事業だと思えます。今、委員の方がおっしゃったようなところも含めて考えていただき、拠点を育てることで、市民にとっても実在する拠点になるような気がします。

<事務局>

97 ページの「機能の充実」について、現在の草津市の状況としては、子育て支援センターは草津保育

所内と民間保育園内に計2ヶ所にございますし、ファミリー・サポート・センターは、現在、委託で実施しております。先ほどお話がありましたように、子育て支援に関する情報が得られたり、子育てに関する相談、また子育て親子が気軽に集える等、機能を1つにまとめるという中で今後利用しやすい施設として機能を充実させていく必要があると思っています。

また、ファミリー・サポート・センター事業等についても、まだ認知度が58.8%くらいなので今後はこちらも周知の啓発が必要と思っています。

#### <委員>

妊婦健診については言われていましたが、今、現場は少子化を予防という中で、助産施設が減らないようにしていただきたい。よくたらい回しで妊婦さんや子どもが亡くなったと聞くと不安になっておられる方がたくさんいらっしゃいます。その緊急の場合やお産の場合の受け入れ態勢について、どこかに載っていましたか。

#### <事務局>

妊婦さんの受け入れというのは、この中では出ていません。

#### <会長>

今後どこかに、そういう事業を行うときに今のことも含めてですね。

#### <委員>

子どものことは載っていたのですが、今、痛切に私たちが妊婦さん抱えているものですから。

#### <会長>

子どもを増やしていただかないことには、この事業自体が成り立たないですね。

#### <委員>

たくさん事業がされていますが、委託にかかる事業はどのくらいありますか。

#### <事務局>

各論の事業についてすべて把握していませんが、子ども家庭課でやっています事業の中では、例えばファミリー・サポート・センターやつどいについては、実施主体は市で、事業は民間委託という形で実施しております。また、子育て支援センターについても、1ヶ所は民間の保育所に委託をしております。

#### <委員>

私のところは保育所を町内で持っており、補助は一切もらっていません。子育てサロンも約100人の参加があり、大体2回やっていますから延べ200人の参加があります。こういったこと等で考えますと、地域力をできるだけ使い、市が地域に援助を求めたほうがいいのか、それが協働の大前提だと思います。総額でどれくらいの金額が、事業者に流れていくかも考えていかなければいけない、いわゆる事業仕分けです。

### <事務局>

現在、つどいの広場は保健センター内に1カ所、月曜日から金曜日まで5日間、実施をしています。計画の中では、今後中学校校区に1つ程度、子育て支援センターかつどいの広場を作りたいという思いでいます。現在、草津学区にあります。志津、玉川、老上についても非常に要望等がございますので、つどいの広場については、民間に業務委託の形で、来年度、1カ所の増設を考えています。事業実施形態は週3日固定の場所で実施し、あと1日は出張型という違う場所で実施できたらと考えております。しかしながら、現在、野路地域をはじめいろいろな地域で、サロンなど、いろいろな団体が活動等をしていただいていますので、その活動を生かし、つどいができたら地域の活動が無くなってしまうと困りますので、その辺、調整をさせていただきながら、計画を進めさせていただきたいと思っています。

あとサロンの支援という部分では、以前は開設準備の助成でしたが、意見交換会等で人材的な部分や場所の手配がなかなかというご意見等もあったので、その辺も含めて計画の支援の中に反映させていきたいと考えています。例えば専門の人の必要な場への派遣とか、場所等のコーディネートという部分では、子育て支援センター等でさせてもらうという機能を、今後は充実させていきたいと思っています。

### <委員>

その話は分かったがそうではなく、丸投げも困るが、経費削減が狙いなら事業者をたくさん入れるよりも、地域の力を集約して事業をすれば、経費はかからないと思います。

### <事務局>

おっしゃるとおり、今の活動がより充実できるような支援を考えていくという部分も必要と思います。

### <委員>

そういう人たちに対して、市で講師を集めて指導もしたほうがいいと思います。

### <事務局>

各地で活動されている方へのリーダー研修といった機会も増やしたいということで計画させていただいており、今の計画を堅実に事業に反映させるようやっつけていこうと思っています。

### <会長>

今後の事業の進め方の、1つの方向性として検討をしてみてください。

### <委員>

連携・協働という意味では、家庭ではできないところは行政が補うというところは当然ながらありますが、家庭ですべきもの、行政ですべきもの、会社や職場ですべきものという区分けは、一つひとつ事業の中でしっかりやっていただくことが大事かなと、全体的には思いました。

保育所の関係では、前回も出ていました時間延長といった話や、別の会議で、実際に現場の方から、お母さんが働こうと思っても預ける場所がないとか、また、雇用が厳しい時代でありながら、求職があっても働く条件がうまく合わないといったところもあり、保育時間が8時半から5時までといった時間ばかりではなく、それ以後のこともあると思いますので、その辺をどう支援するかという話が非常に大

事かなと思います。

雇用の安定等から家庭環境も良くなり、あるいは生活水準も何とか保てる中で全体的にレベルアップするのではないかなという思いでいますので、保育に関しては大切だと感じます。

いろいろなサービスについても一緒に、仕事帰りで6時以降しか相談に来られない方について、夜の7時、8時まで相談業務を受けられるのか、相談に来られる時間が何時から何時という既定があるのかどうか、その辺をお尋ねしたいと思います。

ネットワークのつくり方の中では、今、民間では携帯のサイトを使ったり、いろいろな媒体で情報を流され、呼び掛けをされており、そういう部分もうまく利用して具体的にされたらどうかと思います。

先日、教育関係の方に講演いただいたときに、学校の先生が親とのかかわりのほうが子どもとのかかわりより時間が長く、ほとんど勢力をそちらに注いでいると聞き、現場の先生方は大変だなと思いました。肝心の教育よりも、親の対応のほうが時間がかかるのは問題ですので、親の教育に対する部分にも力を入れていただきたいという感想です。

#### <会長>

最初の現状と夜間の相談事業ということが、今、行われているのかどうか、分かりますか。

#### <事務局>

相談体制について、県では子どもや親からの相談、児童虐待等の相談を24時間体制でされています。市では時間内という形ですが、保育所、幼稚園に預けておられる保護者の方はそこで相談できます。孤立化と言われている在宅の方への対応については、月曜日から金曜日の支援センター、市役所、つどい等で相談をうけておりますが、将来的には機能の充実という中で、ほかに土日も開いているいろいろな施設がございますので、そういった機能的な部分については、検討していく必要があると思っております。

#### <委員>

個人的な話ですが、フルタイムで仕事をしており、子どもは3カ月の時から保育園に預け、とても忙しく気持ち的に余裕がなく、突発的な子どもの病気のと看、「誰に見てもらおう」「どうして仕事を休もう」と自分だけのことになってしまい、行政のことが遠い存在でこんなにたくさんの施策があったのにサービスを全然受けてこなかったのです。もっと身近に感じられたら、私も余裕ができたし、子どもも余裕が持てたと思います。資料も見やすい感じで、こういうイメージ図とか、イラストでしてもらおうと、もっと身近に感じて利用できたお母さんもいっぱいいるのではないかと感じました。

また、地域協働合校にこの夏参加しましたが、大人の数はとても多かったのですが、子どもの参加が少なく、こんな楽しいのにもったいないと思いました。私も核家族であまり地域と接する機会がなかったのですが、やはり私たち親世代の親育ちも大事だし、地域の方々にたくさん教えてもらって、親子で参加できるように、私たち親世代ももっと3番の「わかちあい」で参加できるように、土日で行きたいというのがあれば、参加させていただきたいと思いました。

#### <会長>

確かに、情報の問題はそうで、ここにいるからこんなにたくさん草津は頑張っているよと分かるけれども、本当に必要な人に必要なだけ情報伝えているかという点、認知度はとても低い

のです。そういう意味では、これだけのサービスを必要なお父さん、お母さん方にどう届けるのかも含めて、ぜひともいろいろ考えていただきたいと思います。

#### <委員>

フルタイムで働かれている方は、子どもの学級閉鎖とか急な対応のとき、困られているのが現状で、両親が少しずつ休みを取りながら対応されています。ファミリー・サポート・センターでという話もありますが、その地域に提供会員さんの人数がそれだけおられるかという、おられないのが現状です。パートタイマーでも、結局、急なときは無理があるのです。その中で、今回計画の中で「保育ママ事業に取り組みます」とありますが、これは、小学生も対象ということで大丈夫なのですか。

#### <事務局>

これは就学前の子どもさんが対象です。特に0、1、2歳までの子どもさんの待機児童が多く、保育してもらわないと働けないという形の中で出てきた制度ですので、小学生は入っていません。

#### <委員>

学級閉鎖の時、学童が利用できないため、丸1日休みを取らなくてはいけないということがあり、こういう制度で小学生まで使えるのがあればいいなと思っております。

#### <会長>

確かに切実なところですね。委員さんの意見というか、言葉として受け止めていただいて、これからの事業に生かしていただきたいと思います。

私のほうから、各論以降のところですが、現状と5年後の目標で、数値が変わっていない事業が非常に多いということと、逆に5年後の目標値が下がっているところがあります。1つは64ページ「理科教育推進事業」、現状は11回で、5年後は逆に減らすように努力しますという形になっていること。83ページ「スクールカウンセラー相談事業の充実」は、前期からの方向性として推進事業になっているけれども、現状500件が26年度には300件にしますという形で、相談件数を減らすことがいいことだということでやっているのか。普通なら目標値の充実といえば、目標値を上げてそれに向かって頑張っていきますというのが普通の形だと思うのです。この2点の目標値の意味を教えてください。

#### <事務局>

64ページの「理科教育の支援事業」ですが、今年度小学校の指導要領の改正があり、それらのカリキュラムの移行期で、今年度重点的に取り組んだため数値が高くなりました。しかしながら、今後はカリキュラムがすべて整っていきますので、通常どおりのカリキュラムだけを学習していけば、いいので数値も通常どおりとなっております。

#### <会長>

現在は、カリキュラムの移行期で、これが特別だというふうに解釈したらいいわけですね。

#### <事務局>

83ページの「相談件数が少なくなる」というのは、今、500件あるのですが、子どもたちや保護者の

様子が落ち着いた状態であれば、保護者や児童生徒のほうからも相談件数上がってこないだろうという意味合いで捉えておりまして、相談が増えることがいいとは学校教育課では考えていないのです。落ち着いた状態であれば、相談件数は減ってくるという解釈で、この目標値を設置しております。

#### <会長>

91 ページ「小児救急医療」も同じような形で、適正利用者数ということが指標になっていますが、逆に現状はかなり厳しいというか、コンビニ受診みたいなどころがあるということですか。

#### <事務局>

現在、救急で来なくていい方が夜中に来られるのが現状です。1日の仕事や家のことが終わって落ち着いてから受診されるということが現に起っておりまして、明日まで待てるとか、昼間に行けばいいのにすいているだろうと夜来られるということで、病院現場が疲弊している状況です。特に今は、インフルエンザのこともあり、ドクターが回らない状況があります。入院が必要であるとか、緊急の方は本当にごくわずかという現状があり、適正利用をお願いしたく、そういう啓発について、もっと十分していかなければいけないということです。

ただ、現状は1万8,000件あるのですけども、目標が本当に1万6,000件という数字でいいのかどうかというのも、難しいところはあります。

#### <会長>

根拠がはっきりしていれば、それでいいと思います。

それから、リーディングプロジェクトとして挙げている事業は、ほかの事業と比較しても重点的に、積極的に推進していきますという思いを持って、特にという4つを挙げているわけです。そこでどうしても気になったのは、地域協働合校以外は新規事業であるとか、推進事業として目標値が現状よりもいい形になっているけれども、唯一、最初にある地域協働合校だけが現状維持という形になっています。だとしたら、リーディングプロジェクトとして挙げる必要もないのかなど。逆をいうと、現状850だけでも、リーディングプロジェクトとして推進していくという思いを持って挙げるのならば、当然、5年後の目標は880なり900となり、それに向かっていろいろな形で、学校や地域などに啓発したり、一緒に何かやりましょうと行政として働きかけをしたり、そういう事業としてやっていくべきものだと思うのです。現状維持という、この辺りをどう考えて理解したらいいのでしょうかという、目標値の根拠が、なぜこういう形になっているのかを教えてくださいたいのです。

#### <事務局>

目標値というのは非常に難しい部分で、現状でも延べ8万4,000人、中学生は1万5,000人、大人は7万5,000人が待っていただいています。かかわっていただいている延べ人数というと、市の総人口12万の倍ほどで、その中で平成19年が833、現状850で微増という状況なので、これから伸びる目標としてどうかというのは悩んだところなのです。現状の3カ月等から割り出すと目標設定しづらい部分もあり、現状でまず落ち着かすということで、850という数字を出させていただいています。

#### <会長>

だとしたら、逆に評価の指標を、何か別の指標というのは考えられないのですか。

### <事務局>

地域協働合校だけではなくて、数値が同じように示されているものがいくつかあります。基本的に数値が同じというのは、我々事務局の認識として、事業については一定、定着をしていると。指標としてはこうだけど、今後の評価としては、その中で地域協働合校であれば、子どもの数が非常に少ないという問題に向けての取り組みの充実という、取り組んだ内容で評価をしていくことになるのかなと思っています。

### <会長>

まさにそういうことなのです。かかわっている人間が飽和状態で、こういう目標しか挙げられないのなら、その質をどう高めていくかという形で、何も事業数を増やさなければ中身が充実しないということではなくて、今日、課題がいろいろ出てきて、市の方々もその辺りは課題として感じていらっしゃるなら、例えば、指標を参加子ども数として、いろいろな形でこれから5年間啓発をして1.5倍にするとか、評価指標を変えて、5年間で何か成果を上げていくという姿勢を見せないと。ほかにもたくさんあるけれど、逆にいうと、リーディングプロジェクトのところは変わらないのだったら別の評価指標で、今まである課題をクリアしていくというふうに書き直すとか。もっと草津としてこの子育ての中で、この地域協働合校を盛り立てて、高めていくということなら、子どもの数という視点から5年間、評価指標として増やしていく努力をしていこうということだったら、リーディングプロジェクトとして十分意味がある。

そこに市全体が、事業で何事業をやりましたと、ある意味去年やったことを、また今年も同じ数で毎年毎年ルーティンワークみたいな形でやっていくということだけでなく、そうやって毎年やっていく中で、どれだけ子どもが参加したのかという視点から、もう1回中身とか、あるいは募集の仕方とか、情報提供の仕方を見直ししながら、そこから地域協働合校というものを見ていこうということでもいいのではないかと思います。

せっかくリーディングプロジェクトやっているのだから、増えないからこれをやるのだったら、別のそういう視点から、より積極的に数が増えないのだったら質を高めるためにどうすればいいのかという形で評価できないかということも、もう1回検討していただいて、できれば、一番最初に出てきているものがこういう形だと、残念なのでその辺りをお願いしたいのです。

### <事務局>

リーディングの課題の部分について、指標を設定などしていくということで、各論の中にも指標的にもう一度、今お話しいただいた内容に合うような形で、もっと市民の方から見ても分かりやすいような指標という形のを、再度各課に返させてもらって、若干その辺の指標で変更があるかもしれませんが、パブコメをさせていただくまでに、もう一度見直しをしていくということでお願いします。

### <会長>

どうしても指標・成果で、アウトプット、アウトカムとよく言われるのですが、その成果は、単なる事業者数、利用者数だけで見るのではなくて、それを通してどう育ったかという成果としてどう見るか、最近よく言われているのです。地域協働合校というのは、草津市の事業で非常に大切にしなければいけない事業と思うので、そういう意味で、いろいろな角度から評価しながら、底上げというか質を高

めていくという。何かそういう意識を職員の方たちも持っていただき、1つの事業の評価指標は1つだけではなく、いろいろな角度から見たときに、またそこに大きな課題が見えたりするものなのです。

そういった意味で、ほかの事業についてももう1度本当にこの指標でいいのか、ほかの指標で評価したらもっといろいろな形で問題点とか、課題とかやるべきことが見えてくるのではないかということも含めて検討していただくと、もっと意味のある、行動計画になると思います。

#### <委員>

今のお話しと関係しますが、地域というのは草津市全体を地域と見て話をしているのでしょうか。草津市の場合、都市部とローカルな所が混在していますので、それぞれの地域にいる子どもたちでは、状況も違って来るかと思うのです。もし、そういう指標を使うのであれば、その辺のところも加味してほしいという気もしますし、本当に田舎の子どもたちは田舎の、都市部の子どもたちは都市部の中でしかできないことが地域協働合校なのか、地域にこだわるのが本当に地域協働合校なのかどうかということも、また別の観点もいるかと思うのです。地域の中にどれだけの子どもさんがいて、どういうふうに育っているのか、評価の中に入れてもらえたらと思います。

#### <会長>

漠然とした指標でなく、あらためて草津市ならではの独自の指標を作り上げることができたら、それだけでも非常に大きなことだと思います。

指標の部分から、もっとこういう形にしたほうが、より市民にも分かりやすいし、成果というものも目に見えてくるし、そういうところがあれば、少し修正も含めて考えていただければと思います。最後に、全体を通して何か言い忘れたことがありましたらお願いします。

#### <委員>

計画はいろいろ立てられ推進していくという中で、認知があまりできていないというところがやはり大きいと思います。せっかくやっていただいても進まないという駄目だし、認知して使っていただかないと意味はないので、それらの取り組みをどうされるのかを、今、お返事いただくのではなく、しっかりご検討いただきたい。この計画の冊子を全市民にお配りするという事はないかなと思いますので、概要版を作られるのか、どういう形になるのかというのは非常に大事な事だと思います。

ホームページに載せるというのも1つの方法でしょうけれど、要はこういうのがあるということ、学校を通じて渡すとか、子どもが生まれて届けに来られたときに渡すなど、いろいろやっておられると思うのですが、その辺が執拗に大事かなと思います。フルタイムで仕事されているとそんな余裕もなく、どうしたらいいか分からないというのもあります。その辺で、少しずれるかもしれませんが、129ページの「計画の推進体制」に、進捗状況や評価と書いていますけど、要はどうやって知らせ、どうやっていくのかという、本当の意味での進める成果として、全体の計画の推進体制の中にそういった具体的な手法というのが1つあってもいいのではないかと感じましたので、申し上げます。

#### <会長>

ほかの方はよろしいでしょうか。またあれば、直接事務局のほうへ言っていただければと思います。事務局においては、今日、委員の方々からいただいた意見などを踏まえて、今後のパブリックコメント実施に向けて、作業を進めていただきたいと思います。

次回の協議会は、パブリックコメントで意見を求めた後、最終的に皆さんに協議をしていただくということになっておりますので、そのときにまたいろいろなお話やご意見をお伺いしたいと思います。  
では、以上で本日の協議会はすべて終了といたします。

#### <事務局>

本日は長時間にわたり貴重なご意見をいただきまして、今回、協議会でいただきましたご意見等を踏まえ、後期計画の修正をさせていただいた上、パブリックコメントを実施したいと思います。パブリックコメントについては、1月15日から1カ月程度という形で考えております。また、委員の皆さまもお気づきの点等ございましたら、ご意見をいただきたいと思います。

パブリックコメントが2月15日に終了した後、次回の協議会のほうを3月上旬ぐらいに予定をさせていただきます。パブコメの意見並びに回答、また最終の修正に基づく後期計画について、最終確認をその協議会の中でしていただき、最終決定していきたいと考えております。

年度末、お忙しいとは思いますが、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

#### <委員>

パブコメについてですが、年齢とか聞くよりも、内容に対して最初から単刀直入に記入できるようにしてほしいと思います。